



第18回例会(11月5日)  
平成22年11月12日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10  
川徳テパート内  
例会場 同上 TEL(651)1111(代)  
FAX(653)5622  
例会日 毎週金曜日12時30分～

会 長 吉田 幸一  
幹 事 民部田義男  
会 報 谷藤 和彦  
クラブ直通電話 TEL(653)5682

Building Communities-Bridging Continents '地域を育み、大陸をつなぐ'..... Ray Klingensmith

新入会員卓話

「フランスよもやま話」



日本銀行 盛岡事務所長  
大山 陽久 君

7月末に入会しました。  
「岩手県は、フランスとイメージが重なっている」とお話ししていたのですが、岩手もフランスも、農業畜産県(国)ということでは同じです。今日は企業経営にフランスの話が参考になれば、という点からお話しさせていただきたいと思います。

ヨーロッパを動かす大国  
フランスと欧州統合

フランスには、世界の五大先進国(G5)のイメージがあると思います。ヨーロッパを考えたとき、日本人はイギリスだけを見てしまうようですが、大陸にあるフランスとドイツが世界を動かしているかたちになります。フランスとドイツは許嫁のようなもので、大陸を2人で動かしていかなければならない。ヨーロッパをどう動かしていこうかと考えたとき、当て馬になるのがイギリスです。

フランスとドイツが許嫁であるとする、結婚後の生活を有利にするために「ほら、イギリスもそう言っているじゃないの」と、2対1の関係にするためにイギリスが使われる。そういう意味では、イギリスが最終的にヨーロッパを動かしていると言えるのですが、本命の2国があって、イギリスは当て馬に過ぎない。

日本では、ヨーロッパについての記事をイギリスの『フィナンシャル・タイムズ』を読んで「何が起こっている」と話すようですが、ヨー

ロッパからみると、あれはインチキだらけの記事なのです。オレンジ色の新聞なので、自分たちもジョークで「色が付いた新聞」と認めている、金融を取り上げた新聞です。金融というものは、美人投票のように「みんながそう思うか?」ということで相場が動いていく。正しいか、どうかにかかわらず、みんなが新聞を読んで相場を張っているのです、一大的な部数になるということです。

実際は、フランスがいろいろなことを動かしていて、外交面でみんなを惹きつけている。調整力もあるので、国際機関のトップはフランス人であるケースが多い。

最近ユーロが導入されて、ヨーロッパが統合された印象がありますが、ヨーロッパは第二次世界大戦でお互いに戦争したことで、非常に傷ついてしまいました。もう戦争はしたくないということで、戦争防止のために経済を密接にしていこうとなった。

具体的には、ドイツとフランスの経済がくっついてしまっていれば、相手の国の工場などを爆破してしまうことで、自分の国に出荷される製品がなくなって困ってしまいます。相手を攻撃すると戦争コストが高くなるので、それを防ぐことから始まっています。

戦争のあとの1950年、「シューマン宣言」により、戦争は繰り返さないという基本的な考え方が出てきて、52年に欧州石炭鉄鋼共同体ができた。軍事資源になる石炭や鉄鋼は、いっしょ

に管理しようと、今のような貿易が始まった。それから EC などができて経済やエネルギー分野の協力をするようになり、93年には欧州連合のかたちで外交・安全保障分野などで協力するなど、ドンドンと連携が広がり、95年のシェンゲン協定により、国境でパスポートを見せなくてもいいようになった。その前後には、通貨面で94年に欧州通貨機関、98年に欧州中央銀行など、金融面での統合が進んでいった。戦争を防止したい国同士がくっつきたいと、ドンドンとくっついていったということです。

今年の春に、ギリシャ危機がありました。ギリシャもヨーロッパの一員なので、みんなで支えなければならない。大きなポイントは、1999年にユーロという通貨が導入されて、さらに2002年には紙幣まで導入されてしまったことです。生産性が高い国と低い国の落差は、為替で調整できたのですが、同じ通貨（ユーロ）を導入してしまったがために、通貨の調整ができなくなってしまった。ギリシャなどを除くことができなくなり、通貨が入り交じっていますから、もう戻ることができない統合をしてしまった状況です。

生産性の格差がある場合、経済学の先生たちに言わせると、財政を移転させる必要性がある。ヨーロッパの場合、今回は財政で補填することになりました。参考までに日本への教訓としてみると、岩手県や北海道のように、生産性がちょっと低いところと、東京などの生産性が高いところが同じ通貨でやっているわけですから、同じ基準で勝負しようとしても、我々が勝つはずがないのです。地方には補助金を出してもらおうというプラスがなければ、生産性が低い地域が持たないことになります。

これをさらに展開すると、恋愛のように「もっと、もっと」とエスカレートしていく。ヨーロッパの場合も通貨まで来たのですが、さらに前向きに統合していこうと、憲法や大統領や外相のポスト、議会などをいっしょに作ろうといったことが議論されている現状です。

## フランスの産業、国家経営 メリハリの利かせ方

フランスには、ブランド品のイメージもあると思うので、それをリストアップしてみました。ワインがいちばん有名ですが、ブドウから作っていることから考えると農業加工品です。シャンパンも同じ。フォアグラは鴨ですから、畜産加工品。シャネルなどの香水は、花から作る農業加工品。チーズは酪農加工品。エビアンやペリエは水を汲んだだけ。エルメスやルイ・ヴィトンには革製品ですから、岩手県も似たようなかたちで製品を世界にアピールしていくことができるのではないかと思います。

本拠地フランスのブランドで、たとえばヴィトンを考えると、頑丈な革で傷みにくい。良い物が欲しいというお客様が偽物か、本物か、いちいち吟味すると時間がすごく掛かります。むしろ同じマークを付けておくと、本物だと分かりやすい。先にお客様がいて、識別化するためにマークを付けていることを日本人は理解していない。皆さんもいろいろな商売をする中で、価格競争に巻き込まれて大変ということがあります。同じ物を作るとそうなりますが、どの価格でも欲しいというお客様が出てくるような商品を作らなければいけない。

日本製品自体がブランドと言われますが、日本では非常に品質の高い物を製造業が造っていますので、そういう意味で日本製品は正しいブランドということになります。日本製品のメリットを活かしていく。たとえば、行列を作って売るとか、数を限定して作るなどのブランド学のようなものがフランスにあり、大学院もあります。最近は一橋大学にもできたそうです。

フランスでは製造業も健闘していて、原子力発電所を作り、電力の6割以上を原子力でまかっています。パストゥール研究所などがあり、医薬品なども作っている。そういう先端的な産業を持っているので、競争力も優位になっている。フランスの日本への関心については、浮世絵のコレクションがあり、印象派はそこから出てきた。お寿司が大好きです。マンガが評判に

なっていて、テレビでもアニメがたくさん流れています。フランスでは砂浜が珍しいので、ミシュランのガイドでも砂浜には2つ星が付いています。

国家経営としては、エリートを非常に教育していて「100人クラブ(Club des Cent)」があり、国家の中で優秀だった100人が集まる。そのクラブで言い出したことから、政策が決まったりしている。メンバーは顔見知りですから、何かあればトップ同士で話し合いができます。基本的には階級社会ですが、閉塞感を持たないのは、いろいろな分野にマエストロがいるためです。それぞれの分野で秀でていると、あちこちで頑張ることになり、人生が豊かになる。そういう場合はユニークさ(個性)が大事にされるし、自己主張が価値判断になっていく。

旅行などに行くと、電車の時間などが遅れたりして「フランス人は、いい加減だ」と思うこともあるでしょうが、いい加減であるということはスピード感が持てることにもなっています。少人数でポイントを抑えているフランスは、やるときは速い。そういうことから、世界の動きに適應できるのだと思います。

原子力発電所について話しました。いい加減に原子力発電所を運営したら、事故が多発することになります。絞めるところはキチンと絞めている。要するにメリハリがある。これから日本も大変なので、メリハリを利かせるところは、フランスを真似てもいいのではないかと思います。

フランスは企業経営となると、労働者を大切にして「話し合いでやろう」という文化も、日本と似ている。ちなみに工場立地を探す場合、高速交通網へのアクセスと、補助金が大きな決定要因になります。トヨタが北フランスに工場を造ったとき、利害調整が大変でしたが、フランスはトヨタのためだけに、わざわざ特命副知事を設置して、その副知事が関係調整をした。やることは、しっかりやるというメリハリがあります。

さらに言うと、トヨタはフランスにデザインセンターを持っています。ヨーロッパ向けの車

はベルギーで作っていたのですが、南仏の日がさんさんと降り注ぐテクノポリスにセンターを移したところ、ベルギーと同じ雇用条件で集めたのに、非常に良い資質の人たちが集まってきた。岩手も「大自然が素敵」とアピールすれば、研究者たちも引っ張ってくるができると思います。

## フランスの社会構造と ヨーロッパ民族ジョーク

最後にフランスの社会構造について、まず男女関係について話したいと思います。フランス人男性は、フランス人女性があまりにわがまま過ぎて手に負えず、日本人女性は言うことを聞くからと、くっついていることが多い。日本人男性はフランス女性とはなかなか上手くいかない。日本女性さえ手に負えない日本男性が、わがまままで最上位クラスのフランス女性を手玉によるようなことは難しい。日本女性を口説けるようになってから、フランス女性を口説くのがおすすめです。

ヨーロッパに広げて「民族ジョーク」というものがあります。「世界でいちばん幸せな男は、どの国の男か?」というジョークです。

「アメリカの給料をもらって日本の妻をもらい、イギリスの住宅に住んで中国人の料理を食べる」というものです。

ちょっとズラすと、世界一不幸な男になります。「中国の給料をもらってアメリカの妻をもらい、日本の狭い住宅に住んでイギリスの不味い料理を食べる」。すごくバリエーションがあるので、その一例をご紹介します。

世界一幸せな男は「アラブ人の給料をもらい、日本の妻をもらい、フランス人の愛人を持つ。アメリカの広い住宅に住んで中国の料理を食べる。ドイツの車に乗って、イタリアの服を着て、イギリス人の執事がいる」。これはいい生活です。

世界一不幸な男は「中国の給料をもらい、フランスのわがままな妻をもらい、愛人はドイツ。日本の狭い住宅に住み、イギリスの不味い料理を食べる。アメリカのガソリンをたくさん消費する車に乗り、アラブのみずほらしい服を着て、

イタリア人のいい加減な執事がいる」とあります。

これを岩手に当てはめると、食材が入るかもしれないので、皆さんで作ってみてください。

もうひとつの民族ジョークです。「沈没しそうな船において、乗客に飛び込むように促す文言」というものです。「誰がどれだろう？」というのですが、

「紳士は、こういうときに飛び込むものです」  
…イギリス人

「規則では、海に飛び込むことになっていません」…ドイツ人

「さっき美女が飛び込みましたよ」…イタリア人

「海に飛び込んだらヒーローになれますよ」  
…アメリカ人

「お酒の瓶が流されてしまいました。今、追えば間に合います」…ロシア人

「おいしそうな魚が泳いでいますよ」…中国人  
「今が亡命のチャンスですよ」…北朝鮮人

「海に飛び込まないでください」…フランス人  
「みんな、もう飛び込みましたよ」…日本人  
ということで、楽しく終わらせていただきます。